

研究推進計画

(1) 研究構造図

【研究主題】 仲間と協働し、学びを自覚する子どもの育成
 ～算数科を中心とした学び合いと終末の学習活動の工夫を通して～

【目指す子ども像】

- (1) 問いをつくり出し、自分の考えを表現できる子ども
- (2) 協働して課題を解決し、考えをつくり出す子ども
- (3) 学びを自覚し、次の学習や生活につなげる子ども

【目指す授業像】

- (1) 課題から問いをつくり出し、見通しをもって既習事項を使いながら解決する
(主体的な学び) 導入
- (2) 全員参加で協働しながら、学びを深める
(対話的な学び) 展開
- (3) 一人一人が学びを自覚し、次の学習や生活につなげる
(深い学び) 終末

【研究テーマ設定の理由】

本校児童は明るく素直で、学習活動に対して意欲的であり、まじめに取り組むことができる。昨年度は、全体での学び合いの充実のために、適切に学びをコーディネートすることに重点を置いて研究をしてきた。友達の考えをよく聞き、関連付けながら話す場面が見られるようになってきた。しかし、学び合いに全員が参加しているとは言えない状況がある。その原因を分析してみると、自分の意見をもつ段階に必要な基礎的な力や前時の学習内容に習得が十分でないことが考えられる。学び合いの時間を充分に取ることで、授業の終末の時間が少なくなってしまうことも少なくない。そのため、知識を定着させたり、自分の変容に気付くような振り返りをしたりする時間が不足してしまったことで、次時につながるものにならなかったと考える。特に算数科において苦手意識のある児童が多い現状から、今年度は、算数を中心に、授業の終末の学習活動の工夫を通して、仲間と協働し、学びを自覚する子どもの育成を目指していく。

研究内容①

問いをつくり出し、自分の考えを表現するために 主体的な学び

- ①一人一人の児童の実態と育成を目指す資質・能力の的確な把握
- ②挑戦の意欲を引き出す問いや必要感のある課題から生まれる子どもとつくるめあての設定
- ③課題解決までの見通しのもたせ方や既習事項の想起の工夫(掲示物の活用など)

研究内容②

全員参加で協働しながら、学びを深めるために 対話的な学び

- ①学習形態とグループ構成の工夫(考えが違う同士、分かる人分からない人混合など)
- ②子どもの思考をゆさぶり、考えを深める発問の工夫と子どもの発言の価値付け
- ③子ども同士で話をよく聞き、質問したり、答えたりできるような「学び合い」の目的の明確化

研究内容③

一人一人が学びを自覚し、次の学習や生活につなげるために 深い学び

- ①一人一人が学びを自覚するためのまとめ、評価問題、振り返りの時間の確保
- ②指導の個別化を図る手立ての工夫
- ③次の学習や生活につなげるための子どもの学習状況の見取り

【研究仮説】

- ・必要感のある課題を提示したり、見通しをもたせたりすることで、自分の考えを主体的に表現する力を身に付けることができるであろう。
- ・思考をゆさぶり、考えを深める発問を工夫したり、学び合う目的を明確にしたりすることで協働しながら、学びを確かなものにしていくことができるであろう。
- ・授業の終末の時間を確保し、指導の個別化を図る手立てを工夫することで一人一人が学びを自覚し、次の学習や生活につなげていくことができるであろう。

【研究のまとめ】

- ・PDCAサイクルを共有しながら研究内容に沿って全体の授業改善を図る。
- ・年に2度、児童と教師のアンケートを実施し、子どもの変容や指導の手立ての有効性を確認する。